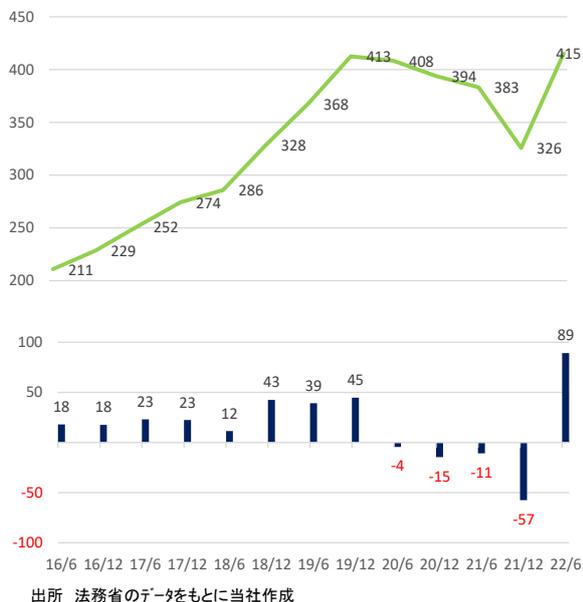


## 《お疲れ様でした》

法務省が12月9日に2022年6月分の在留外国人統計を公表した。それによると、2022年6月末の技能実習生の総数(特定技能を含む、以下断りのない限り同様)は2021年12月末に比べて8万9千人の増加となった。これまでの減少の反動に加えてコロナウイルス感染症対策の緩和を受けて外国人の日本への入国が容易になったことも加わり大幅な増加となったようだ。この数年ではみられない大幅な増加であり、技能実習生の受け入れに関連する業務に携わる方々はこれまでに経験のないレベルで多忙な半年を過ごされたことは容易に想像できる。心底より感謝を込めて「お疲れ様でした」と申し上げたい。

図表1 技能実習生数の推移 (単位 千人)



## 《技能実習生の供給状況に変化》

過去数年の技能実習生の供給状況は、所得水準の向上に伴う中国からの供給減少をベトナムが代替するという流れだったが、ここにきてインドネシアやミャンマーが存在感を高めている。

技能実習生の国別供給状況の変化をみるために、我々はコロナウイルス感染症の感染拡大直前のピークだった2019年12月末と2022年6月末の国別供給状況の変動を調べ

図表2 技能実習生(特定技能を含む)の国別供給状況

国/地域	2019年12月末時点(A)		2022年6月末時点(B)			
	人数(人)	構成比(%)	人数(人)	構成比(%)	増減数(B-A, 人)	増減率(B/A, %)
<b>総数</b>	<b>412,593</b>	<b>100.0</b>	<b>415,161</b>	<b>100.0</b>	<b>2,568</b>	<b>0.6</b>
ベトナム	219,628	53.2	234,705	56.5	15,077	6.9
インドネシア	35,593	8.6	48,658	11.7	13,065	36.7
中国	82,470	20.0	42,254	10.2	-40,216	-48.8
フィリピン	35,985	8.7	38,218	9.2	2,233	6.2
ミャンマー	13,218	3.2	19,932	4.8	6,714	50.8
カンボジア	9,610	2.3	12,189	2.9	2,579	26.8
タイ	11,404	2.8	10,942	2.6	-462	-4.1
モンゴル	2,125	0.5	2,662	0.6	537	25.3
ネパール	421	0.1	2,223	0.5	1,802	428.0
スリランカ	745	0.2	1,230	0.3	485	65.1
ラオス	560	0.1	633	0.2	73	13.0
インド	226	0.1	347	0.1	121	53.5
バングラデシュ	168	0.0	332	0.1	164	97.6

出所 法務省のデータをもとに当社作成

てみた。この間の技能実習生の総数はほぼ横ばいだったが、これは中国の4.0万人減少をベトナムの1.5万人増加、インドネシアの1.3万人増加、ミャンマーの0.6万人増加等でカバーしたためである。中国の減少をカバーするのにベトナム以外の国々の貢献が大きくなっていることがみてとれる。また、ネパール、バングラデシュ、スリランカ、インドなどの増加率がかなり大きくなっている点も目を引く。これらの国々が供給元として注目され、一定の認知を獲得しつつあるとみられる。技能実習生の供給国の多様化はまだ初期段階だが、様々な国を巻き込んで緩やかに始まっていると考えてよいだろう。

## 《バングラデシュの魅力》

将来に向けては、経済成長に伴う中国やベトナムからの供給減少をカバーするだけでなく、日本の労働力人口の減少も視野に入れながら人材のロジスティクス戦略を考える必要が高まっている。具体的には人数を増やしながら調達国の多様化に対応することになる。

ベトナムや中国の代替としてインドネシアやミャンマーが台頭しつつあるが、南アジア諸国のプレゼンスの上昇も見逃せない。我々はそのなかでもバングラデシュのポテンシャルは大きいとみている。その魅力は以下の通りである。

魅力の第一は、質量ともに高い水準の人材供給国となりうる点だ。バングラデシュは人口規模が大きいうえ、年齢の中央値が 26.3 歳と低く（次頁図表 3）、高品質の若い人材を豊富に供給できる。また、2020 年のバングラデシュの移民総数は世界 6 位の 740 万人で、2015 年から年率平均 1.6% の増加と堅調に推移しているが、この伸びを支えているのは、世界標準



高いコミュニケーション能力、仕事に対する勤勉さ、突然帰国したりしない契約に対する真摯な姿勢を有する若い人材が豊富に存在する

の高いコミュニケーション能力（かつて英国植民地であったこともあり英語に通じている）、仕事に対する勤勉さ（中東の高層ビル建設のほとんどに寄与してきた実績がある）、契約に対する真摯な姿勢（突然帰国する例が少ない）といった人材の品質である。

第二の魅力は移民総数に対する先進国への移民数の比率が低い点だ（次頁図表 3）。技術大国である日本の技能実習制度の魅力が日本とバングラデシュ両国にウィンウィンの成果をもたらす可能性がある。バングラデシュの人々は中東の高層ビル建設に貢献してきたという実績があり、その実績をベースに日本での「技術習得」というモチベーションを付与できれば日本で働く魅力を大いにアピールできるであろう。同様に中東では介護関連人材の評価が高く、日本での「技術習得」に興味がある人材は多いとみられる。また、バングラデシュ国内では農業、縫製業、食品加工業、水産業において日本での「技術習得」に興味を持つ人材が多数いると推測される。



中東やシンガポールの高層ビル建設のほとんどにバングラデシュの労働力が貢献してきたといわれている。建設技術やインフラ技術習得に対する意欲は高まっている。



安価な労働力を求めて、近年の縫製業の隆盛は目を見張るものがある。これと連動してより高度な技術習得を希望する若い世代が増加しつつある。これは水産業、食品加工業、農業でも同様に見られる傾向だ。

第三の魅力は人口に対する海外移住者の比率が比較的高い点である（図表 3）。人口 100 人のうち 4~5 人は海外移住している状況であり、海外で働くことに対する抵抗が小さいことが推測でき、異文化への順応力も相応の水準にあると考えられよう。なお、バングラデシュの母国語であるベンガル語は日本語と文法が似ているため、日本語習得力が高いといわれている。

第四の魅力は所得水準が低い点だ。一人当たり GDP は中国の 12,562 ドルの 15%、ベトナムの 3,718 ドルの約半分の水準で、ベトナムの 2011 年の水準とほぼ同等である。今後かなりの長期間、日本で働く経済的メリットは揺るがないと考えることができる。中長期にわたって安定した人材の供給が期待できるといえよう。

第五の魅力は政府のサポートである。バングラデシュの人口増加ペースが大きく、経済成長による国内雇用の増加だけでは生産年齢人口の増加を吸収できない。バングラデシュ政府もこのような認識のもと、移民労働者にインセンティブを付与するなどしてその送り出しに積極的に動いている。日本の労働力受け入れ需要やバングラデシュのポテンシャルから考えて、2022 年 6 月末で 332 人という水準にバングラデシュ政府が満足しているとは考えられず、今後も受け入れ拡大に対して手厚いサポートが期待できる。新たな人材供給先国を考える場合、供給国の政府や関係機関のサポートは心強いものであり、立ち上げにかかわる様々な負担の軽減に大きく役立つと考えられる。政府の積極的なバックアップは大きな魅力と考えられるだろう。

**図表3 技能実習生の供給国のファンダメンタルズ比較**

		人口		海外移住者				一人当たりGDP (ドル)
		総数 (A、百万人)	年令の中央値 (才)	総数 (B、百万人)	対人口比 (%)	うち、先進国 への移住数 (C、百万人)	C/B (%)	
急伸する 南アジア 諸国	インド	1,406.6	27.6	17.9	1.3	5.6	31.6	2,280
	ネパール	30.2	23.7	2.6	8.6	0.4	13.7	1,209
	バングラデシュ	167.9	26.3	7.4	4.4	0.9	11.5	2,498
	スリランカ	21.6	32.5	2.0	9.1	0.8	40.0	4,016
ベトナム代替 として拡大 中	インドネシア	279.1	29.4	4.6	1.6	0.5	9.9	4,361
	ミャンマー	55.2	29.0	3.7	6.7	0.2	6.3	1,217
これまで の主力調 達先	ベトナム	99.0	32.0	3.4	3.4	2.7	79.6	3,718
	中国	1,448.5	37.9	10.5	0.7	5.7	54.5	12,562
	タイ	70.1	39.3	1.1	1.6	0.7	67.3	7,232
(参考)日本		125.6	48.4	0.8	0.6	-	-	39,301
各データの出所		国連人口基金「世界人口白書2020」	国連人口統計(2021年)	国連経済社会政策部統計(2020年)	B/A	国連経済社会政策部統計(2020年)	C/B	世界銀行

注1 統計の種類が異なり、年次に差異もあるが、比較のためにあえて集計、計算した

注2 移民は出稼労働者と同一ではない点には注意が必要である。

## 《我々アセアン・フィナンシャル・ホールディングスからのご挨拶》

我々は協同組合「善美」(<https://www.zenbicoop.com>)を通して、既に10以上の国々（インド、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ミャンマー、インドネシア、カンボジア、ラオス、ベトナム、モンゴル、タイ、フィリピン、中国など）で、22の送り出し機関と提携し、多様な人材の供給のお手伝いしております。

2022年は「Lion at Bay」を通して情報提供をさせていただき、誠にありがとうございました。我々は外国人材が日本のサービスや商品提供のためのロジスティクスにおいて重要な部分を担うと考え、その中長期的な戦略立案にお役に立てるように情報提供を継続してまいりました。来る2023年には、より多くの皆様と情報交換させていただき、更に情報提供の質を向上させることができると考えております。是非、一度お時間を頂戴してご面談を賜りますようお願い申し上げます。

技能実習生の供給パターンにも変化がみられ、調達先の多様化の萌芽がみられておりますが、我々はバングラデシュをはじめ、前出10以上の国々の政府関係者や人材戦略のトップとのコミュニケーションを通して送り出し国の情報収集や調達能力の向上にも努めており、戦略立案だけでなくその執行力も一段と高めております。2023年も引き続きよろしくようお願い申し上げます。